かしこく　やさしく　たくましく　　【えがお　あふれる　川東小学校】

川東小だより

第7号
平成３０年１１月１５日
新発田市立
川東小学校

☆☆合い言葉は、「夢や目標」に向かってチャンス・チャレンジ・チェンジ　です。☆☆

『読書百遍意自通』

【 読書百遍（ひゃっぺん）意（い）自（おの）ずから通ず 】

研究主任　佐藤八十穂

「どんなに難しい書物であっても、繰り返し読むうちに意味が自然にわかるようになるものだ。」という中国の故事です。私は、秋の読書旬間になると、この故事を思い出します。

小学生になった私が持っていた本は、保育園の時に叔母からプレゼントされた絵本１冊きりでした。「小学〇年生」やら「〇年生の学習・科学」といった雑誌は買ってもらっていましたが、物語などの本を持っていなかったのです。

そんな私が、装丁のしっかりとした、いわゆるハードカバーの物語の本を手にしたのは、小学校１年生の冬休みでした。農閑期となり、新発田の街へ働きに出ていた母が、買い与えてくれた「豊臣秀吉」の伝記でした。

私は、生まれて初めて買ってもらった本が嬉しくて、この本を枕元に置き、毎晩読むようになりました。今思えば、読めない漢字もあったと思います。そんな私に、両親や兄、姉は、読み聞かせをするわけでもありませんでした。私は、挿絵をもとに、自分が読める範囲で読書していたのだと思います。

飽きることなく、毎晩同じ本を読んでいる息子を不憫に思ったのでしょうか。母が、２冊目の本を買ってくれたのは、２年生の２学期だったかと思います。今度も伝記、「徳川家康」の本でした。私は、この新しく手にした本を前回と同様に、毎晩、毎晩読むようになりました。この頃になると、本を読んで得た知識を祖母に、得意げに話していたのを覚えています。今は亡き祖母は、私の話す伝記本からの受け売りの史実を、「そうかい。それはすごいね。」などと相槌を打ちながら、笑顔で聞いてくれました。

こうした様子を快く思った母は、その後も１年に１冊、息子に本を買い与えてくれました。「夏目漱石」、「赤穂浪士」といった本だったと思います。私は、これらの本を６年生になるまで、枕元に置き、何度も何度も読んでいました。こうした本との接し方をしたことで、本を読むことと同時に、日本の歴史にも興味・関心をもつようになりました。中学生の頃、徳川幕府の将軍の名前を全て暗唱できたのは、「徳川家康」の伝記を繰り返し読んだことによるものだろうと思っています。

さて、２１世紀の子どもたちは、自宅でどのように読書を楽しんでいるでしょうか。お気に入りの本を繰り返し何度も読んだり、好きなシリーズの本を全て読んでみたりするという姿があるのでしょうか。

１１月は、秋の読書旬間の時期です。川東小学校では、全校で朝読書に取り組んでいます。読み聞かせボランティアさんからお出でいただき、楽しい本をたくさん読んでいただきました。川東小学校の子どもたちには、自宅でも読書を通じて、非日常の世界を体感し、想像力を高めてほしいと願っています。

ご家庭の皆さんも、秋の夜長、子どもたちと一緒にお気に入りの本を読んで、物語の世界に浸ってみませんか。